

## 技術検定で2級学科試験を年2回に 高校生で最大4回に

国土交通省は、29年度より、2級土木施工管理技術検定(種別「土木」と2級建築施工管理技術検定(種別「建築」)の学科試験をこれまでの年1回から年2回の実施に変更することとし、技術検定の受験機会を拡大。

近年、若年層の入職者が大幅に減少し、離職率も高いことから、担い手確保の必要性が高まっている中、技術検定の受験者数も減少し、合格者の高齢化が進んできています。【2級土木(学科)合格者の平均年齢:28.2歳(13年度)→32.8歳(27年度)】こうした現状を踏まえ、「土木」、「建築」について、学科試験の年2回化を先行的に実施。

資格を緩和することで、若年者の入職促進に大きな効果をもたらすことが期待されています。

### 【2級土木施工管理技術検定】

【1回目 試験日】 平成29年10月22日(日)	【2回目 試験日】 平成30年2月25日(日)
-----------------------------	----------------------------

### 【2級建築施工管理技術検定】

【1回目 試験日】 平成29年6月11日(日)	【2回目 試験日】 平成29年11月12日(日)
----------------------------	-----------------------------

## 建設業の人材確保・育成

国土交通省と厚生労働省は4月21日、建設業の人材確保・育成に向けて2017年度に予算措置した関連施策をまとめました。関連予算で最大の50億円を計上したのは、認定職業訓練や技能実習の費用を助成する「建設労働者確保育成助成金」。17年度は、若年者(35歳未満)や女性をトライアル雇用した中小建設事業主に対し、1人当たり最大4万円を助成するコースを設けました。

### 「若年・女性労働者向けトライアル雇用助成コース」

経験の不足などから建設業への就職に不安のある若年者や女性を対象としてトライアル雇用を行う場合に、中小建設事業主が適切な指導・監督を行えるよう、その費用の助成を行い、トライアル雇用終了後の常用雇用への移行を促すことで、若年・女性労働者の確保を図ることを目的とした制度です。

◆支給額  
対象者1人当たり、月額最大4万円(最長3ヵ月間)

◆対象中小建設事業主  
①至急申請時点で、「建設の事業」の雇用保険料率(14/1,000)の適用を受ける中小建設事業主であること  
②支給申請時点で、雇用管理責任者を選任していること

◆対象となる労働者  
①トライアル雇用開始日時点で、35歳未満の若年者、または女性  
②主として建設工事現場での現場作業(左官、大工、鉄筋工配管工など)に従事する者、または施工管理に従事する者  
※設計、測量、経理、営業などに従事する者は対象となりません。

## 下水道BIM・CIM導入モデル事業の開始

国土交通省は、i-Gesuido※1の一環として、下水道施設の建設工事と改築工事における下水道BIM/CIM導入モデル事業を平成29年度から開始します。

下水道BIM/CIMは、図面を3次元化し「情報の見える化」を図ることで、現場の安全性・施工性向上が期待されており、モデル事業によりその効果検証を行います。

※i-Gesuidoとは、ICTの活用による下水道事業の質・効率性の向上や情報の見える化を行い、下水道事業の「持続」と「進化」を実践する新たな取組み。

### ■下水道施設の特徴

- 土木・建築・機械・電機設備が複合して関与し、細やかな設計・施工・維持管理が必要
- 管渠、機械設備に付随する配管、配線などが輻輳した現場環境  
⇒BIM/CIM導入による下水道事業の効率性向上に期待

### ■下水道BIM/CIMに期待される主な効果

#### 【設計】

- ・合意形成、意思決定の迅速化  
⇒住民説明、工事説明、関係者協議の効率化
- ・設計ミス、手戻りの減少  
⇒設計の可視化、図面の整合性の確保

#### 【施工】

- ・現場の安全性向上  
⇒作業現場内の危険箇所を  
事前チェックにより、事故を未然に防止
- ・施工性が向上し、工事日数短縮  
⇒施工計画書への反映により、施工順序の最適化  
現場内情報の円滑な共有

#### 【的確な維持管理】

- ・現場の安全性向上  
施工時の品質情報や仕様書、維持管理に必要な情報をモデルに追加し維持管理を効率化

## 社会保険未加入対策の強化について

国土交通省直轄工事において、平成29年度4月1日以降より対策が強化されます。

- ・入札契約手続きを行う全ての工事において、二次以下の下請け業者を社会保険加入業者に限定。
- ・加えて、猶予期間内に加入確認書類が提出されなかった場合、受注者に対し、制裁金、指名停止及び工事成績評定の減点を実施する。

なお、措置を講じることについては、**本年10月1日以降**に入札契約手続きを行う全ての工事において適用されます。

# 平成28年度 ICT土工活用効果調査

平成28年度は以下の発注方針で約1620件においてICT土工対象工事として発注し、584件において実施されました。

## 【ICT土工の基本方針】

### ・発注者指定型

予定価格3億円以上の大規模な工事は、ICT土工の実施を指定し発注。

### ・施工希望者Ⅰ型

3億円未満で土工量20,000m<sup>3</sup>以上の工事は入札時に総合評価で加点。

### ・施工希望者Ⅱ型

**規模に関わらず、受注者の提案・協議によりICT土工を実施可能。**

全てのICT土工において、IVT建機等の活用に必要な費用を計上し、工事成績評価で加点評価。

H28度 ICT土工実施件数				
	発注者指定型	施工者希望Ⅰ型	施工者希望Ⅱ型※	合計
ICT土工実施件数	66	220	298	584

※受注者との協議で実施した件数を含む

また、国土交通省は、昨年度から直轄工事で本格的に取り組み始めたICT土工で、起工測量から完成検査まで要する時間が平均で23.4%削減できたとする速報値を明らかにしました。ICTで28年度から先行導入したICT土工では、ドローン(小型無人機)を用いた測量やICT建機による施工などが具体的に進んでいます。調査結果における速報値では、起工測量、測量計算、施工、出来形計測、完成検査の合計時間が従来施工で、68.9時間かかるころ、ICT土工では、52.8時間にまで短縮していることを確認しました。

## 京都サンダーからお得なサービスがスタート!

サービス等生産性向上IT導入支援事業補助金をご活用ください!

### 制度利用のポイント

- 補助金は最大100万円 (販売価格の3/2まで・下限20万円)
- 申請・交付決定後の購入なので安心!
- 対象は中小企業等!

### 手続き期限

二次交付申請開始  
3/31~6/30

### 最大

100万円  
補助

## ■IT導入補助金について

サービス等生産性向上IT導入支援事業補助金(IT補助金)は、平成28年度補正予算で行われるサービス等の生産性の向上に資するIT等のツール導入を促進することで、サービス産業等の中小企業・小規模事業者の経営力向上を図ることを目的とした制度です。取得後、5年以内に2%の労働生産性を向上させることを目的とします。

### <補助金について>

補助上限額:100万円 下限額:20万円

### <申請期間>

平成29年6月30日(金)17:00まで

※申請後、支給に係る審査で採択された事業者様に補助金が支給されます。審査結果によっては、支給対象とならない場合がありますことを予めご了承ください。

## ■取り扱い商品一部ご紹介



詳しくは、京都サンダーまでお問い合わせください。

# 研修会のご報告

## 京都サンダー受託 研修会レポート

(一社)京都府建設業協会主催の新人研修会が、京都府建設業会館で2日間にわたって行われ、新人のみなさんが参加。

1日目には、ハタコンサルタント(株)の降旗達生氏が講師を勤め、建設技術者としての基礎・基本知識を講義。参加者を5~6名のグループに分け、「雑談力」や「質問力」を鍛えるグループワークを行いました。

2日目には、京都サンダー(株)から田辺直子が講師を担当。コミュニケーション力を鍛えるグループワークを行いました。ビジネスマナーの基本として、挨拶や姿勢・表情、言葉遣いをロールプレイング形式で、実践を交えながらの講義となりました。2日間の間一緒に受講をしたことで、交流が深まり、打ち解けた雰囲気です。



## ■ビジネスマナーとは

社会人同士が業界を問わず、同じ目的を達成するために、ある一定のルールを守りながら、相手を大切に思う気持ちを形にして伝えるもの。

マナー=思いやり  
思いやり=相手を大切にすること

- ・誰にでも聞き取れる声で話す
- ・相手の話をしっかり聞く
- ・お互いの時間を大切にする 等

## 《シリーズ》 IT用語解説

### ■ CIM 土木分野

【 Construction Information Modeling の略 】

計画・調査・設計段階から三次元モデルを導入し、その後の施工、維持管理の各段階においても三次元モデルに連携・発展させ、合わせて事業全体にわたる関係者間で情報を共有することにより、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図るもの。三次元モデルは、各段階で追加・充実され、維持管理での効率的な活用を図る。

### ■ BIM 建築分野

【 Building Information Modeling の略 】

コンピュータ上に作成した三次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築すること。BIMの活用により、設計~施工、維持管理に至るまでの建築ライフサイクルのあらゆる工程で効率化につながる。